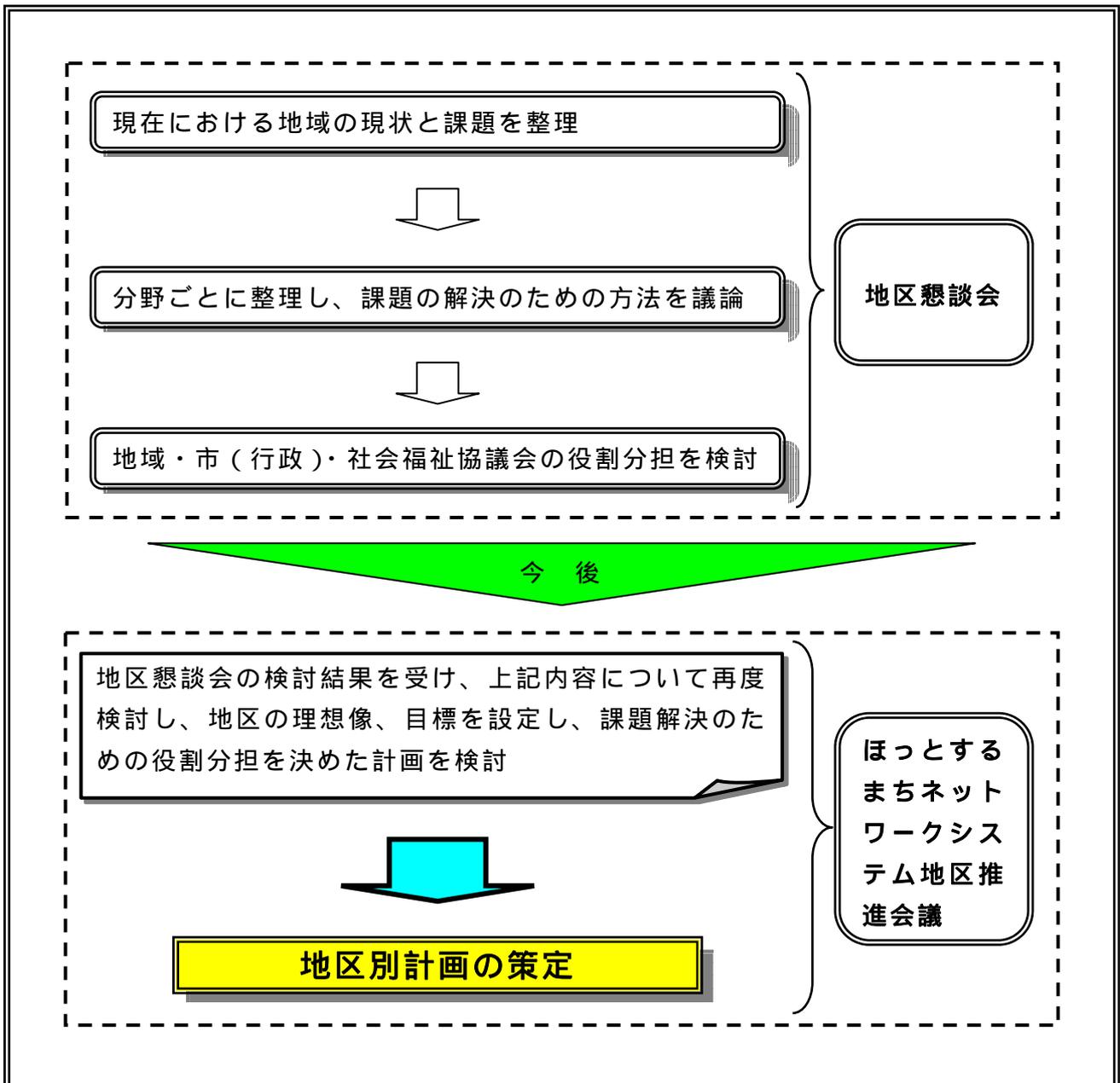


## 第5章 地区別の方向

市民参加による計画を策定するため、地区懇談会を開催し、地区別の課題や役割分担について検討を進めてきました。

今後は、この検討結果について、ほっとするまちネットワークシステム地区推進会議で、議論を進めるとともに地区別計画の策定につなげていきます。

### 地区別計画策定に向けての今後の流れ



# 中部地区

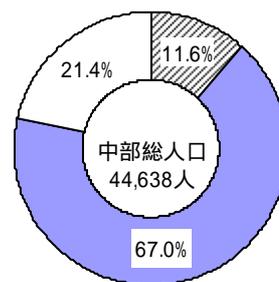


## 中部地区の人口・世帯の状況

(平成20年10月1日現在、外国人登録除く)

人口		
0 ~ 5 歳	2,050 人	( 4.6 % )
6 ~ 14 歳	3,141 人	( 7.0 % )
15 ~ 64 歳	29,880 人	( 67.0 % )
65 歳以上	9,567 人	( 21.4 % )
合計	44,638 人	
世帯		
世帯数	21,106 世帯	
一世帯当たり 平均世帯人員	2.11 人	

## 年齢3区分別人口構成



▨ 0~14歳 ■ 15~64歳 □ 65歳以上

## 中部地区からの意見一覧

### 1. 地域活動

- ✓ 世代を超えてみんなが集まれる公園がほしい。
- ✓ 福祉会館は、60歳以上でないと貸してもらえない。若い世代(40~50歳代)の人たちの活動の場がない。
- ✓ 個人情報保護の関係で、地域を見守ることに困難を感じる。
- ✓ 認知症の高齢者がいるが、プライバシーの問題が騒がれており、気軽に声をかけられない世の中である。
- ✓ 地域で防災・防犯のことに取り組みたいが自治会もなく、居住者が分からない。
- ✓ 災害時、特に地震が起こったときのことが心配である。自治会がなくなり、「向こう三軒両隣」の意識がなくなってきた。災害が発生したその瞬間、隣同士が声を掛け合って避難所までどうやって動くかという仕組みづくりが大切である。
- ✓ 人づきあいの壁が大きくなり、新しく引っ越してきた人が自治会に入っていない。
- ✓ 「ふれまち」で、世話役(まとめ役)がない。
- ✓ 大型店の登場により、地域の核となる商店がなくなってきた。
- ✓ 小学生の下校時に合わせて、見守りとゴミ拾いを行っている。なかなか参加者が増えず、メンバーが固定している。
- ✓ ふれまち活動に温度差がある。「ふれまち」・「ささえあいネットワーク」・民生委員が組織的、継続的に関わってほしい。
- ✓ 地域のことも大事だが、一番大事なのは知り合いをつくってコミュニケーションをとることである。
- ✓ 「ふれまち」のメンバーがずっと同じ人であり、新たな人に声をかけてもなかなか集まらない。地域の中で、子ども・障害・高齢者などそれぞれの関心ごとが異なり、それ以外のことはやらない。
- ✓ 拠点活動をしているが、参加者が固定している。一部の人のために公費を使っているという批判がある。増やしたいが、社協と行政の協力が必要ではないか。
- ✓ ふれまちのメンバーが同じ人ばかりで、新しい人が増えない。どのようなことをしたら、広がりをもたらすのか。

### 2. 災害

- ✓ 民生委員で「災害時一人も見逃さない運動」をやっているが、我々は実際には何も動けない。誰が中心となり誰が関わるのか、全く分かっていない状態であり、どう対処するかを決めないといけない。
- ✓ 災害時の対策が不十分である。災害時に、高齢者に対して誰がいつ、どう手を差し伸べるのか見えてこない。
- ✓ 災害が起きたときの避難方法を明確にする必要がある。
- ✓ 災害に関することは、行政が中心にならないとシステム化は難しい。
- ✓ 孤独死の防止のため、緊急時にボタンひとつで連絡の取れるシステムが必要であり、行政は、お金をかけてでもシステムが必要なところには取り組むべきである。
- ✓ 災害に対する意識を高めるために市報等で避難所の周知をしたり、視覚に訴えるPRがもっと必要である。
- ✓ 災害時の市の方針や、具体的な内容についてPRをもっと進めてほしい。
- ✓ 泉町に住んでいるが、自治会から外れている地域なため、災害時における独居老人のことが心配である。地域での組織化が必要である。
- ✓ 災害時の、高齢者の一人暮らし、障害のある人、日中独居等の人たちへの対策について、地域としてできることを決めるためにも、行政がどこまでできるのかをはっきり示すべきである。

### 3. 高齢者

- ✓ 地域の高齢化が進んでおり、防災や防犯など様々な問題が発生している。
- ✓ 一人暮らしの世帯が多くなり、それに伴い健康不良を訴える方も多く、自治会が成り立っていない。
- ✓ 高齢者の無理な道路の横断や、自転車の無灯火運転が多い。高齢者は体力が低下しているのだから、その認識をもっと持たなければいけない。交通安全についての働きかけが必要である。

#### 4．子ども

- ✓ 子どもたちの声が地域にいても聞こえない。
- ✓ 子ども遊び場があると良い。
- ✓ ボール投げを禁止している公園が多い。
- ✓ 子育て中のお母さんの顔が見えない
- ✓ 公園の遊具等が子どものニーズに見合っていない。「～するな」と禁止するばかりではなく、子どもの意見を取り入れ、もっと遊びたくなるような取り組みをすべきである。
- ✓ 子育てサークルに参加する親が増え、ボランティアだけでは見守れない時があるが、ボランティア人数が増えない。

#### 5．福祉教育

- ✓ 近くに公園があるが、犬のフンやごみがあり、ゴミを捨てていく人が多く、モラルが低下している。
- ✓ ペット（特に犬）の糞尿の後始末が徹底されていない。市報等にもマナーについての記事があるが、もっと徹底してほしい。
- ✓ 子どもたちにも「福祉教育」を広めてほしい。
- ✓ 市で年1回交差点の渡り方を指導しているが、小学3年生だけではなく全校生徒を対象にした指導を行うべきである。
- ✓ 公園を利用する人のモラルが欠けているような気がする。特にゴミ問題。

#### 6．環境整備

- ✓ 高齢者の病気予防のために気軽に体験できる健康遊具を公園に設置してほしい。
- ✓ 公園を使って高齢者対象の体操教室を開催している。健康のための遊具より、高齢者向けの椅子を設置してほしい。
- ✓ 団地内に来客用の駐車場がない。
- ✓ 児童館において、小さな子どもが安心して遊べるような安全面に配慮した整備を行ってほしい。
- ✓ 火葬場（葬儀場）を建設してほしい。
- ✓ 住吉小の学童路が狭いので、子どもたちが安心して歩くことができるよう整備してほしい。
- ✓ 道路が狭く、車椅子の人が通りにくい。
- ✓ ゴミの分別方法について、袋の色分けが分かりにくい。色を統一してほしい。
- ✓ 収集車を、エコ・カーにすることが必要ではないか。
- ✓ ゴミ袋の値段が高い。
- ✓ 東町ゴルフ場脇の植木の中などに対して、ゴミの不法投棄が多い。地主と交渉して看板を立てるなど、もっと工夫をして美化をすべきである。
- ✓ （ひばりが丘の）パルコのゴミ置き場に他の地域からゴミを持ってきて捨てている人がいるので、対処するべきである。
- ✓ 公園が夜10時以降騒がしいことあり。警察のパトロールをこまめにして欲しい。
- ✓ 公園にある落ち葉の清掃を近所の人やっている。市からは週1回10分程度しか来ない。
- ✓ 文理台公園の高い所に屋根のようなものがあり、中高生らしい子どもが登っているのが危険。なくても良いのではないか。
- ✓ 住吉町に森林公園があるが、あまり使われていない。暑いときには、木があり、ベンチもあるので、高齢者にとっては快適な場所になるのではないか。

#### 7．その他

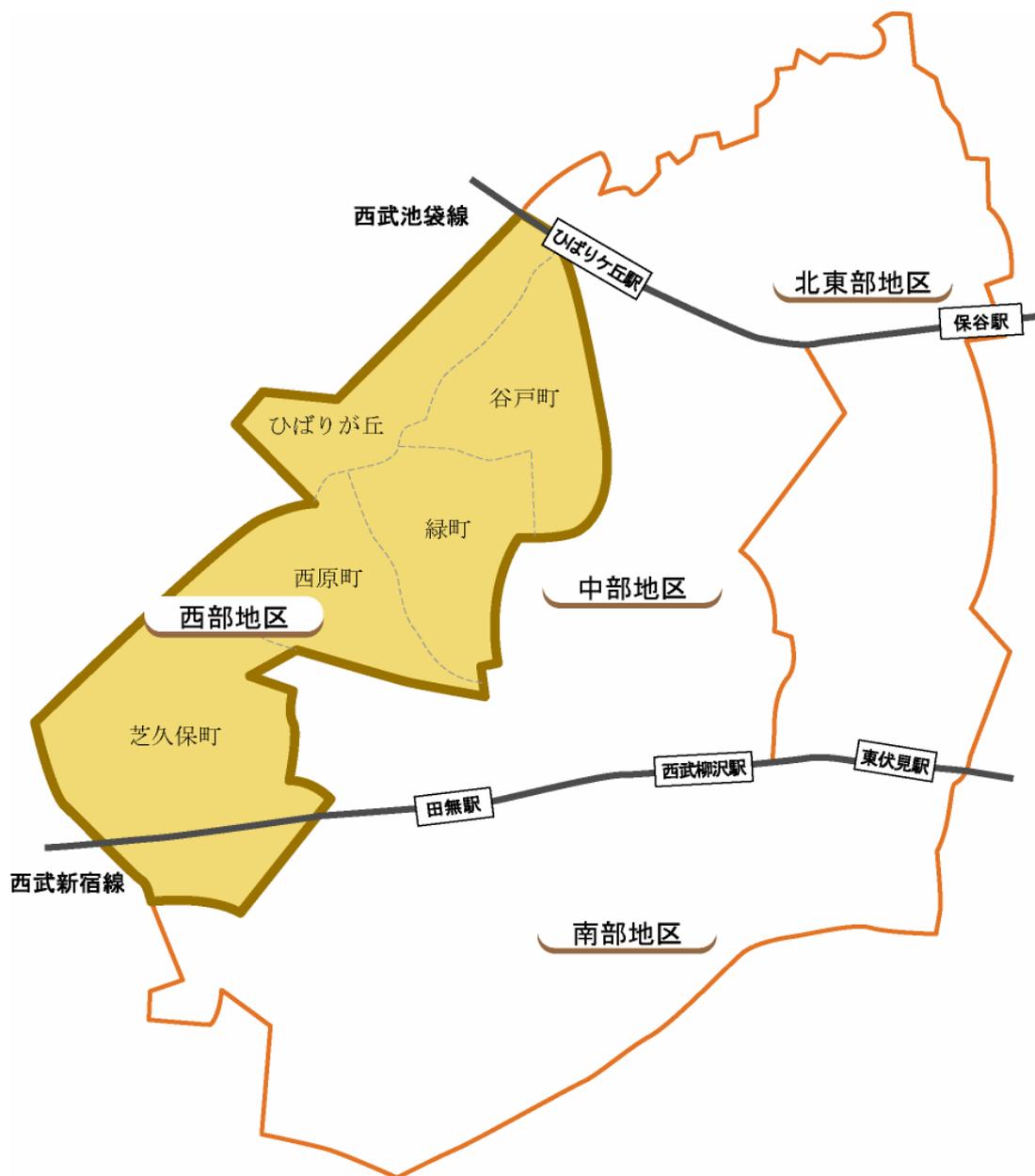
- ✓ 市の福祉に関する情報が、市民（特に高齢者や障害のある人）にきちんと届いているか心配である。
- ✓ 西東京市地域福祉計画第1期の5年間の総括を提示してほしい。
- ✓ 市は、市議会議員と市民の意見のどちらを大事にしているのか。議員を通すと、速く解決するような気がする。
- ✓ 地域づくりには、いろいろな立場の人との連携が必要。小学校の先生にもこういった会議に参加してもらいたい。
- ✓ 市民葬祭場が少ないため、葬儀にお金がかかる。
- ✓ 来年から火災報知器の設置が義務化されるが、まだ未設置の家が多い。防災行事の際などに、実際に火災報知器の展示を行い、PRしてみてもどうか。
- ✓ 市報に工夫をしていると思うが、市民の関心が薄いのか、情報が右から左へ抜けていってしまっている。行事への参加が少なく、今後どうするべきか考える必要がある。

## 中部地区の重点課題と解決のための役割分担

中部地区では、前述のような意見が出され、重点的に取り組むべき課題として、「地域のつながりを深める」「災害時の対応」があげられ、それらを解決するための役割分担について以下のとおり整理しました。今後は、この検討結果をほっとするまちネットワークシステム地区推進会議で議論していきます。

重点課題	重点課題を解決するための役割分担		
	市（行政）	社会福祉協議会	地 域
地域のつながりを深める	組織間の連携強化を図る 出会いの場、協働の場、協議の場を確保する 自治会やふれまちなどを活用した地域福祉推進の体制づくり 市民に必要な情報を総合的・体系的に提供するため、わかりやすく入手しやすい情報提供に努める ささえあいネットワークの充実を図る	地域活動の情報や手法を地域に伝える 専門的な立場から積極的に地域活動を支援し、横のつながりを確保し、発展させる 地域活動への参加の充実に努める 社会福祉協議会の活動をPRする	声をあげ、ニーズを伝える ○要援護者の担当を決める 行政からの情報をしっかり把握する
災害時の対応	組織間の連携強化を図る 災害時における避難情報を周知する 災害に関する情報伝達手段を明確にする 災害時の対応（市の役割・地域の役割など）を明確にする ○住民への啓発活動の推進	○行政・地域と連携して要援護者を把握する 啓発活動を推進する 地域における日頃のネットワークづくりを支援する	○地域の要援護者を把握する 行政の災害時対応方法をもとに、地域の役割を明確にする ○出前講座を積極的に活用し、地域住民の意識を高める

# 西部地区

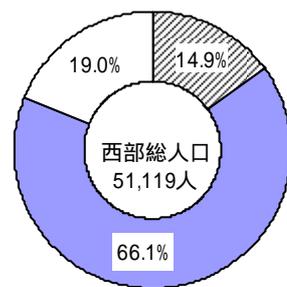


## 西部地区の人口・世帯の状況

(平成20年10月1日現在、外国人登録除く)

人口		
0 ~ 5 歳	3,112 人	( 6.1%)
6 ~ 14 歳	4,483 人	( 8.8%)
15 ~ 64 歳	33,806 人	(66.1%)
65 歳以上	9,718 人	(19.0%)
合計	51,119 人	
世帯		
世帯数	21,978 世帯	
一世帯当たり 平均世帯人員	2.33 人	

## 年齢3区分別人口構成



▨ 0~14歳 ■ 15~64歳 □ 65歳以上

## 西部地区からの意見一覧

### 1. 地域活動

- ✓ 高齢者とのふれあいの場所を地域に整備してほしい。「ふれあいのまちづくり」はあるが、メンバーがいつも同じ人ばかりである。
- ✓ 自治会のあるのかないのか、存在が分からない。民生委員が一戸ずつ全戸回らなければならないのだろうか、伝えきれない。
- ✓ 自治会が崩壊したり、小規模だったり、会長が入れ替わりすぎる。地域の伝達手段をどうするのか分からない。チラシをばらまくのは物理的に不可能である。振り込め詐欺の被害が減らないのは伝わっていない証拠。新しく戸建に移ってきたときも、どういう人たちかわからない。
- ✓ 自治会がなくなってきた。現在は市報で情報を得ることができ、下水道も整備され、自治会の存在意義が薄れてきた。災害時に一体どうなるのか。
- ✓ 町内会が減ってきており、新住民とのつながりができない。高齢者が多くなり、回覧・募金ができなくなった。地域が高齢化している。
- ✓ ふれまち活動が偏っている。人の集まりが少ない。来て欲しい人が来てくれない。
- ✓ 災害時（地震）の避難所までの間に隣近所に声をかけて行く必要があるのではないか。コミュニティの希薄さを感じる。
- ✓ 自治会、町内会が無く、隣近所との付き合いがない。つながりがなかなかつけれない。
- ✓ マンションが多い地域である。セキュリティが高く中に入ることが困難でチラシも配れず、つながりもない。
- ✓ 夕涼み会（まつり）を開催し、若い人を集めてみてはどうか。
- ✓ 三世帯居住している高齢者もいるが、日中独居の人が圧倒的に多い。中途半端に家族がかかわっている高齢者が多く声をかけづらい。災害時にどうしたらよいか。
- ✓ 自治会が少なくなり、火災報知器のまとめ買いができない。また、助成を受けて安く購入できる方法も地域に伝達しにくい。
- ✓ ミニデイの活動がマンネリ化している。
- ✓ 集会所が狭くて遠くて少ない。また、集会所までの道が坂を上ったり下ったりで、高齢者にはきつい。
- ✓ けやき小学校の地域開放棟の利用を進めてほしい。
- ✓ 昼食会をやるうとしても、個人情報問題により、高齢者がどこに住んでいるか分からない。情報を把握している民生委員が交代すると、分からなくなってしまう。
- ✓ 民生委員のなり手がいない
- ✓ ふれまちの世話人が高齢化している。もっと若い人を巻き込むべきだが若い人は仕事に忙しくて活動への参加は期待できない。
- ✓ 活動のための保険手続きや会計報告記録を担っている。他にやる人がいない。

### 2. 災害

- ✓ 災害時には、他市や市境の自治体とは連携ができると良い。

### 3. 高齢者

- ✓ 一人暮らし高齢者を気にかける人が少ない。一人暮らし高齢者の面倒をもっと見るべきである。
- ✓ 認知症の人がいるという情報を受けても、果たして本当に認知症なのか個人情報の問題もあり、確かめるのが難しい。地域包括支援センターに伝えてよいものか。
- ✓ 団地のひとり暮らしが多くなった。720世帯で高齢化が進み、認知症の方が多くなった。
- ✓ 自分の住むマンションのエレベーターが4階と7階しか開かず、それ以外の階に住んでいる高齢者には非常に不便である。
- ✓ 年金が少なく生活が大変だ。生保（生活保護）は絶対に嫌だ、どうしたらよいか
- ✓ 民間アパートに住んでいるが家賃が大変だ（一人暮らしの高齢者）
- ✓ 緊急通報システムについてのサービスの周知を行うべきである。
- ✓ 「ふれあい収集」という制度（一人でゴミ出しできない方対象）もあるが、一人暮らしの高齢者に対しては手伝いが必要である。

#### 4 . 子ども

- ✓ 中学生が公共施設の椅子を破いたり、色々と問題を起こしているのに、中学生の居場所づくりが必要ではないか。

#### 5 . 福祉教育

- ✓ 集合住宅で、収集の仕方のチラシを出しても効果がなく、ゴミが正しく分別されていない。
- ✓ 若い人も高齢者も自転車のマナーが悪い。ルールが最近変わったが、知られていない。自転車教室を開いてはどうか。
- ✓ 地域の中において「障害のある人と共に暮らすことへの理解」が得られない。

#### 6 . 環境整備

- ✓ 公園の雑草が生え放題になっているので、1年に何回か誰かに草むしりをやってほしい。
- ✓ 大型マンションの設置に伴い、訪問してくる人の違法駐車が増えている。再三苦情を入れているが、改善しない。
- ✓ 高齢者施設の設置が少ない地域なので、特別養護老人ホームのようなものがもう一つ二つほしい。
- ✓ シルバーピアに住む人は、ベッドを置くスペースが居室内にない。布団を上げ下ろしが困難な人もいる。間取りに問題があるのではないか。
- ✓ 住人が施設に入ったりして空き家になり、草が生え放題になっていたり、郵便物があふれてしているが、勝手に立ち入ることはできないので、どうしたらよいのか。
- ✓ 宅地化など整備が進み自然が減少している。住宅地の中にある小さな公園の整備が悪く、利用されていない箇所がある
- ✓ はなバスを西部地区に廻して欲しい。病院に通うのに路線バスの本数が少ない
- ✓ 新しくできたルピナスは、地域的に西東京市の中心から外れているため、利用しにくい。市のはなバスがあると利用できる
- ✓ 新しい施設ができて、市内の交通手段が少なく行けない。老人福祉センターへ行くバスの利用方法も分からない。
- ✓ 保谷庁舎に行けるはなバスがあると良い。西部地区から「こもれびホール」への交通が不便。はなバスの本数を増やして欲しい。

#### 7 . その他

- ✓ 障害のある人の問題をどこに相談したらよいのかわからない。
- ✓ 買い物をして、重い荷物を運ぶのは、高齢者にとって大変なので、運んでくれるサービスを商店街で提供してほしい。

## 西部地区の重点課題と解決のための役割分担

西部地区では、前述のような意見が出され、重点的に取り組むべき課題として、「コミュニケーションの確保」「地域活動の活性化」「災害時の対応」があげられ、それらを解決するための役割分担について以下のとおり整理しました。今後は、この検討結果をほっとするまちネットワークシステム地区推進会議で議論していきます。

重点課題	重点課題を解決するための役割分担		
	市（行政）	社会福祉協議会	地 域
コミュニケーション（交流・つながり）の確保	地域で活動している団体や個人の話し合いの場を設定し、積極的に参加する 地域活動の情報について周知を図る	地域で活動している団体や個人の話し合いの場へ参加し、専門家として支援する 地域活動への参加の充実 地域活動情報を地域に周知する	地域行事への参加を呼びかける 地域住民が集まる場・機会を設定する 若い人たちに声をかけつながらをつくる 新旧住民の交流を推進する
地域活動の活性化	地域活動への支援などを行う 地域活動の情報について周知を図る	地区担当者の人員を確保・充実する ふれまちなどの地域活動の活性化を図る 地域活動人材の発掘・育成	できることから始める 活動のPRを行う 自治会がある地域は自治会のメリットをPRする 地域活動人材の発掘・育成 地域住民への福祉教育の実施 他の活動団体との交流の推進、情報交換
災害時の対応	災害時の対応（市の役割、地域の役割など）を明確にする 備蓄倉庫の鍵を持っている人を明確にする 防災意識を高めるためのPRの充実を図る	ふれまちの活動機能を促進する ○行政・地域と連携して要援護者を把握する 災害時の対応について情報共有できるしくみづくりを行う 協力的な人（地域のキーマン）を確保する	ふれまち活動の機能強化を図る 災害時の対応について情報共有できるしくみづくりを行う 協力的な人（地域のキーマン）を確保する

# 北東部地区

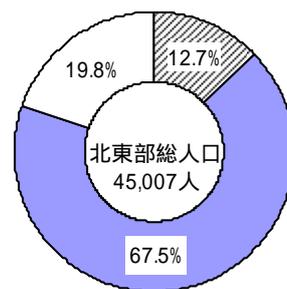


## 北東部地区の人口・世帯の状況

(平成20年10月1日現在、外国人登録除く)

人口		
0 ~ 5 歳	2,236 人	( 5.0%)
6 ~ 14 歳	3,485 人	( 7.7%)
15 ~ 64 歳	30,366 人	(67.5%)
65 歳以上	8,920 人	(19.8%)
合計	45,007 人	
世帯		
世帯数	20,664 世帯	
一世帯当たり 平均世帯人員	2.18 人	

## 年齢3区分別人口構成



▨ 0~14歳 ■ 15~64歳 □ 65歳以上

## 北東部地区からの意見一覧

### 1. 地域活動

- ✓ 情報提供しようとしても誰に提供すればいいのかわからない。一人暮らしの人がどこにいるかわからない。
- ✓ 情報発信のため、地域活動するのに公的施設のコピー機を安く使わせて欲しい。
- ✓ 地域福祉活動の資金が不足している。
- ✓ 高齢者は歩けないので集会場（40人ぐらい入る）を地域に欲しい
- ✓ 活動の場所が不足している。新しくできた保谷駅前公民館などをもっと活用すべきである。
- ✓ 住民懇談会ができて4年になるが、地域福祉活動に取り組む人材が不足している。世話人も高齢化している。
- ✓ 地域との関わりを持つようになって、関係機関と関わったときに専門的知識を持った人が不足している。これからは専門的な人材が必要であり、専門的な教育機関との連携が必要。
- ✓ 近隣地域の問題点の把握が十分でない。住民懇談会のメンバー間でも、必ずしも把握しきいていない。地域でのネットワークづくりが必要である。
- ✓ 東伏見は団地が多く、高齢者同士の近所関係をどこが把握しているのか。コミュニケーションづくりが必要である。
- ✓ ささえあいネットワークから漏れている人たちをどうチェックするかが重要である。
- ✓ 地域のコミュニティ、人間関係が希薄である。年2回荒屋敷公園に500人ぐらい集まって交流があるが、そうした市民発の交流場所がもっと必要である。
- ✓ 老人会は趣味のサークル化している。もっと地域づくりに参加させて活性化させる必要がある。
- ✓ 福祉会館で、ほぼ毎日、朝30分50名ぐらい参加して体操をしている。毎日顔を合わせるので最高。福祉にもってこいである。こうした取組みを増やしたい。「あの人が来ていない」といったことにも気付く。
- ✓ 市民のやる気がイベントを企画する必要がある。
- ✓ 現在動いている各種の機関の統一的な情報交換はできないか。

### 2. 災害

- ✓ いざというとき、どのように動いていいのかわからない。
- ✓ 消防ボランティアなど、最低限の訓練を皆が揃えておくことが大事ではないか。防災訓練なども地域の人の発見につながるならやってみてはどうか。

### 3. 高齢者

- ✓ サービス利用に結びついていない高齢者への対応が必要である。（例：高齢転入者への地域へのデビュー）
- ✓ 70歳以上の一人暮らしを対象に昼食会等を行っているが、網羅的に対応できていない。近隣とのネットワークづくりが必要である。
- ✓ 高齢者の方は外出したがる。家庭以外で話しをしない。
- ✓ 送り迎えの体制作りが必要ではないか。遊ぶことに対して、車をお願いできない。外出時の足（車）がほしい。

### 4. 子ども

- ✓ 子育て世代は市報を見る余裕がない。今回の地区懇談会についても、「自分とは関係ない」と思っているのではないか。
- ✓ ボール遊びのできる場所が少ない
- ✓ 子育てしている若い2人に声をかけると大変喜ばれるので、色々な方が気兼ねなく声をかけられる様な社会をつくる必要がある。
- ✓ 子どもの虐待への対応をどのような仕組みで行うのか、市民にわかるようなかたちで説明してほしい。

## 5 . 福祉教育

- ✓ 「福祉」といっても若い世代は自分たちの生活だけで手一杯で「福祉」への関心が薄いのではないか。
- ✓ 福祉に関心を持った頃には自分が支援される側になっている。何かを一緒にやろうということになると敬遠されるが、支援されることになると皆関心を示す。
- ✓ 交通ルールを守らない・知らない大人が多い
- ✓ 介護保険の改定で生活が困っている人たち（日中独居）を如何に救済するか。
- ✓ ゴミの分別のルールを守れない。賃貸マンションの住人の中には、ルールを守れない人が多い。意識が低いのではないか。

## 6 . 環境整備

- ✓（栄町）地域包括支援センターが北端部に位置するので、高齢者は通にくい。福祉会館にも地域包括の機能を置いてほしい。
- ✓ 福祉会館のお風呂が 3 時 30 分までだが、もっと遅くまでやって欲しい
- ✓ 保谷駅前について、北側から自転車を置けない。
- ✓ ひばりが丘図書館の開館時間を毎日 8 時までにしてもらいたい。
- ✓ はなバスが地域の施設に行きやすいように路線を作って欲しい
- ✓ はなバスを東伏見団地に通して欲しい。団地が高齢化しているのに商店もない。
- ✓ 市の防災放送が聞き取りにくい。自分の住んでいるところは新座市との境だが、新座の方がよく聞こえるくらいである。
- ✓ 防災無線が聞こえない。大音量で流すと、近所の人迷惑するし、小さくすると、遠くの人が聞こえない。大音量で少なくではなく、小音量で多く設置したほうがよい。
- ✓ 水辺のある公園が少ない
- ✓ 歩道が狭くて車いすで移動できない
- ✓ 道路脇のくぼ地にイスが設置されているが、木陰が欲しい
- ✓ ひばりが丘北地区には、公衆トイレのある公園がないので新設してほしい。文理台に時計と電灯を設置してほしい。
- ✓ ひばりが丘北地区には公共施設が少ない。
- ✓ 線路によって地域が分断されてしまう。高架によって解消できるのではないか。
- ✓ 保谷駅北口のロータリーができたが、車中心で歩く人を除外した構造になっている。日陰もほとんどない。木は見通しが悪く、反対が起きる。まちの一角として、人を中心に考えた駅前が必要である。
- ✓ 図書館の移転により、地域の子供たちの勉強場所として、福祉会館に、図書館機能を持ったスペースを作ってもらいたい。
- ✓ 線路の北側は今のところ緑地が多いが、道路ができるとどんどん少なくなるのではないか。個人宅の緑地の保全を図るべきである。
- ✓ 猫が自分の庭に放尿したり、車に傷を付けたりする。猫の管理について対策が必要ではないか。
- ✓ 線路の北側で大きな道路が完成する。完成後に備えて、子どもや高齢者の事故防止について色々考えておかないといけない。
- ✓ 下保谷地区（線路の北側）交番が線路を挟んで反対側にあり、線路を越えてのパトロールが難しい。駐在所があるが、管轄が違う。エアポケットのように警察の目が届かない。
- ✓ 憩いの場であるあらしき公園は、見通しが悪く、特に夜間は不安である。

## 7 . その他

- ✓ 入浴券というものはあるが、下保谷は公衆浴場がないので、もらっても行くところがない。
- ✓ 行政の問題点ごとの具体的な施策提言が不足している。
- ✓ 関係機関の活用不足。内部ネットワークをしっかりと構築しないとイケない。
- ✓ 東伏見自転車置場の利用率について 100 円にしてほしい。
- ✓ それぞれの地域には、市の職員も多く住んでいる。このような会に住民として出席してもらいたい。
- ✓ 福祉会館にはスポーツ新聞しか置いていない。普通の新聞も置いてもらいたい。

## 北東部地区の重点課題と解決のための役割分担

北東部地区では、前述のような意見が出され、重点的に取り組むべき課題として、「支え合いの充実・異世代交流の促進」「活動の場の確保」「災害時の対応」があげられ、それらを解決するための役割分担について以下のとおり整理しました。今後は、この検討結果をほっとするまちネットワークシステム地区推進会議で議論していきます。

重点課題	重点課題を解決するための役割分担		
	市（行政）	社会福祉協議会	地 域
支え合いの充実・異世代交流の促進 ～安全で安心して暮らせるまちづくり～	地域住民の顔が見えるシステムを整備する ○支えあいネットワーク会員の活動内容の明確化、及び目標設定とやりがいの意識付け、PRの実施などを行う ○地域に関わりたい人が誰でも登録でき、円滑に地域デビューできる仕組みを構築する ○個人情報に対する仕組みを検討する ○個人ニーズへのきめこまやかな対応を検討する	活動区域について検討する(高齢者に小学校区は広い) ○地域活動の人材を発掘・確保・育成する ○ふれまち活動について、地域の様々な人が携わることができるよう参加者や活動内容について検討する ○市内の地域活動の成功事例をPRする ○地域活動を行うための研修を実施・充実する ○個人ニーズへのきめこまやかな対応を検討する ○情報交換の場を充実する ○地域課題について専門家として地域を支援する	地域活動に携わる人材(後継者)を確保する ○見守り、声かけなどを行う ○学校や地域の行事などに地域の人々を巻き込むために声をかける ○地域の課題について話し合うよう心がける
活動の場の確保	活動の場の確保のため、地域活団体の支援をする学校などの公共施設について、地域活動で利用ができるよう検討する ○身近な場所(小学校区)での活動場所を確保する商店街の空き店舗の活用を推進する	○身近な場所(小学校区)で活動ができるよう活用可能な場所について情報提供を行う ○商店街の空き店舗の活用ができるよう支援する	○活動に利用できる空き店舗や空家、空き部屋などを発掘する
災害時の対応	災害に関する情報伝達手段を明確にする 災害時の対応(市の役割、地域の役割など)を明確にする ○住民への啓発活動の推進	○行政・地域と連携して要援護者を把握する 啓発活動を推進する 地域における日頃のネットワークづくりを支援する	○地域の要援護者を把握する 行政の災害時対応方法をもとに、地域の役割を明確にする ○災害発生時は、第1に自分・家族、そして隣人の安否確認を行う ○出前講座を積極的に活用し、地域住民の意識を高める

# 南部地区

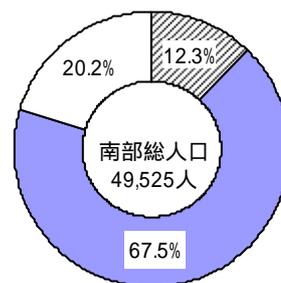


## 南部地区の人口・世帯の状況

(平成20年10月1日現在、外国人登録除く)

人口		
0 ~ 5 歳	2,153 人	( 4.3%)
6 ~ 14 歳	3,965 人	( 8.0%)
15 ~ 64 歳	33,425 人	( 67.5%)
65 歳以上	9,982 人	( 20.2%)
合計	49,525 人	
世帯		
世帯数	22,859 世帯	
一世帯当たり 平均世帯人員	2.17 人	

## 年齢3区分別人口構成



□ 0~14歳 ■ 15~64歳 ▨ 65歳以上

## 南部地区からの意見一覧

### 1．地域活動

- ✓ 地域の方々が主催するお祭りに補助金がほしい。自治会からの寄付などで賄っているが、そうした時に市から補助金を出してほしい。
- ✓ 都バスは無料なのに、「はなバス」は有料である。地域活動者へ割引や無料などの優遇措置を図ってもらえないか。
- ✓ 家の中の電球交換を簡単にお願いできるようにしてほしい。
- ✓ 隣りの人しかあいさつをしないから、近隣の人でもわからない。
- ✓ 市民が公共の場で意見を言うためには、日程調整や雰囲気づくりなど、環境づくりが必要である。
- ✓ ボランティアで紙飛行機をつくっているが、いい親子のふれあいの場になっており、若者の凶悪犯罪が増えている中、小さい頃からの積み上げが必要だと思う。
- ✓ あいさつは人づきあいの基本である。あいさつで相手のことがわかる。不審者発見にも役立つので、町内会にもつなげていきたい。
- ✓ 地域活動で男性の姿をあまり見ない。きっかけづくりが必要である。
- ✓ ふれまちの活動を継続していきたい後継者がいないので、継続の手立てを考える必要がある。
- ✓ マンションの住人が交流できる場所、移ってきた新住民とのふれあいが必要である。
- ✓ 地域のための情報伝達手段として自治会が必要である。
- ✓ 「ふれまち」の参加者が、毎回同じである。声かけなどをして、新しい顔を多く引き入れたい。
- ✓ 田無地区にも拠点（社協）を設置してほしい。
- ✓ 高齢者だけではなく、一般の人でも自由に出入りができる場所（無料）が欲しい。
- ✓ 市立施設だけでなく、都営住宅の集会所などの活用も検討が必要である。

### 2．災害

- ✓ 災害時に備え高齢者情報の把握が必要である。
- ✓ 災害時に助け合える体制づくりが必要である。

### 3．高齢者

- ✓ 一人暮らし高齢者の住宅の確保充実を図るべきである。
- ✓ 定期的に高齢者が通える場所が必要。介護予防のイベントがあるが、イベントのときだけでなく、日常的に行えるとよいのではないか。
- ✓ 孤独死が多く、とりわけ男性に多い。もっと手前で予防できるはずである。
- ✓ 施設利用の手続きが難しい。
- ✓ 独居高齢者の方への情報が不足している。広報だけでなく違う情報手段を考えるべきではないか。

### 4．子ども

- ✓ 児童に対する声かけが大切である。
- ✓ 新しくできたマンションに住む、若い子育て世代の交流の場があればよいのではないか。
- ✓ 子どもをおおらかに見守る体制づくりが必要である。

### 5．福祉教育

- ✓ ゴミの出し方や置き去りなどルールが守られていない。

## 6 . 環境整備

- ✓ お年寄りが通る道がでこぼこである。転んでいるのを見たこともある。市へ改善を求めたが、私道なので対処が難しいと言われた。
- ✓ 神社や農家がある付近は夜暗いので、街灯をつけてほしい。
- ✓ いつでも誰でもほっとできるような場づくりが必要である。公園がその役割を負ってはどうか。
- ✓ 入浴施設がほしい。
- ✓ おあしす（老人憩いの家）内に手すりがない。
- ✓ 大雨の後に、土砂や枯葉があちこちにたまって困る。
- ✓ 雨が降ると、道路に水がたまり、外に出られない。
- ✓ こもればホールまでいく道が狭い。
- ✓ 「はなバス」の運行回数を増やしてほしい。田無に買い物に行くのも、バスならいいが、徒歩ではきつい。
- ✓ 「はなバス」を、「おあしす」（南部地区にある「老人憩いの家」）の前などにも通してほしい。
- ✓ 地区会館に、「はなバス」が通っておらず、行きにくい。
- ✓ 南部地域を中心にはなバスが通っていないので、不便である。
- ✓ 高齢者向けのはなバスルート（公的施設へ行くための）が欲しい。
- ✓ 近所の枝木が覆い、街灯が見えない。通行の邪魔になる。

## 南部地区の重点課題と解決のための役割分担

南部地区では、前述のような意見が出され、重点的に取り組むべき課題として、「身近に集える場の整備」「災害時の対応」があげられ、それらを解決するための役割分担について以下のとおり整理しました。今後は、この検討結果をほっとするまちネットワークシステム地区推進会議で議論していきます。

重点課題	重点課題を解決するための役割分担		
	市（行政）	社会福祉協議会	地 域
身近に集える場の整備	子ども、高齢者、障害のある人の誰もが自由に集うことができる場を身近に整備する	○活動に利用できる場の発掘を行う 活動に利用できそうな場所について、行政・地域と連携して所有者との交渉を行う ○身近な場所（小学校区）で活動ができるよう活用可能な場所について情報提供を行う	○活動に利用できる空き店舗や空家、空き部屋などを発掘する 興味の持てるものを中心に人の集まりをつくる
災害時の対応	災害に関する情報伝達手段を明確にする 災害時の対応（市の役割、地域の役割など）を明確にする 地域ごとの防災拠点を整備する ○住民への啓発活動の推進、広報の充実 災害時の避難場所の確保	○行政・地域と連携して要援護者を把握する 啓発活動を推進する 地域における日頃のネットワークづくりを支援する	隣近所とのつきあいを深めるために、あいさつから始める ○地域の要援護者を把握する 行政の災害時対応方法をもとに、地域の役割を明確にする ○災害発生時は、第1に自分・家族、そして隣人の安否確認を行う ○出前講座を積極的に活用し、地域住民の意識を高める
移動手段の確保	はなバスルートの見直し コミュニティタクシー等の検討	ふれまち事業の中で移動補助を検討	近所の移動の支援や手助け